

平成28年度 秋田県教育委員会
教育的ニーズに応じた特別支援学校施設等整備事業
ICT端末等導入推進事業

i P a d 実践事例集

i P a d 活用票

秋田県立横手支援学校

はじめに

平成28年度、秋田県立横手支援学校では 秋田県教育委員会の「教育的ニーズに応じた特別支援学校施設等整備事業／ICT端末等導入推進事業」により、6台のタブレット型端末（i P a d）が導入されました。

そこで、実践事例を収集し、職員間の回り、効果的にICT（i P a d）を活用した授業が行うことができるよう、授業後にA5サイズの「i P a d活用票」に簡単に実践記録を書き込むことにしました。

本冊子は、「実践事例集」と「i P a d活用票」からなります。

「実践事例集」は、i P a d活用票に記した内容をもとに実践を詳しく記述しました。

「i P a d活用票」は、日々の実践の記録に加筆修正したものです。

目次

1	実践事例集	3
事例1	発語がみられるようになった児童への学校祭ステージ発表の支援 (小学部5年 生活単元学習)	4
事例2	書字に苦手意識のある児童への音声入力機能の活用① (小学部6年 生活単元学習)	5
事例3	書字に苦手意識のある児童への音声入力機能の活用② (小学部6年 生活単元学習)	6
事例4	中学部棟に興味をもつことができるようにする全天球カメラの活用 (小学部6年 生活単元学習)	7
事例5	集団活動を苦手とする生徒に対する授業の目標の再設定と学習機会の保障 (中学部2年 音楽)	8
事例6	集団活動を苦手とする生徒に対する学習機会の保障 (中学部2年 体育)	9
事例7	校外学習の経路の理解促進のためのgoogleストリートビューの活用 (高等部1年 職業)	10
事例8	ハローワークへの校外学習を前にした求人情報の検索 (高等部1年 職業)	11
事例9	訪問学級生徒が注視をするための動画の活用 (高等部3年訪問学級)	12
事例10	ビデオチャットを利用した訪問学級生徒と通学生の同時授業 (高等部3年訪問学級)	13
2	i P a d活用表 小学部	14
	遊びの指導 15 生活単元学習 16 国語 18 算数 19 音楽 20 体育 21 特別活動 21 自立活動 22	
3	i P a d活用表 中学部	23
	生活単元学習 24 国語 26 総合的な学習の時間 26	
4	i P a d活用表 高等部	27
	国語 28 特別活動 30 職業 31	

実践事例集

実践事例 1

発語がみられるようになった児童への学校祭ステージ発表の支援			
キーワード	生活単元学習、学校祭、カメラ（動画）、i P a d タッチャー、能動的動作		
学年 領域・教科	小学部5年 生活単元学習	単 元 名	がっこうさいをたのしもう
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラ（動画／i P a d 標準搭載） ・i P a d タッチャー <li style="text-align: right;">・箱型スイッチ 		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> ・i P a d 標準搭載のカメラは、写真撮影、動画撮影ができる。 ・i P a d タッチャー、箱形スイッチは、i P a d を操作するための外部スイッチである。 		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・発語が見られるようになった児童が、学校祭ステージ発表で、能動的に自分の役割を果たすことができるようにする。 		
I C T 活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ※朝の会の司会などで、あいさつ言葉を教師が声掛けすると、言語不明瞭ながら、発語しようとするようになってきた児童が対象である。 ・学校祭ステージ発表において、能動的に自分の役割を果たすことができるように、事前にi P a d のカメラ（動画）に事前に話したせりふを録音しておき、スイッチを押すことにより、発表できるようにする。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
<ul style="list-style-type: none"> ① i P a d を使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を演じる場面で、能動的な動作ができなかったと思われる。 ② i P a d 使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が演じる場面になると、スイッチの方向に手を伸ばして、自分の声を再生しようとする動作が見られた。 ・本児の手前の机の上にスイッチを、後にi P a d を設置したため、スイッチではなく音声が出るi P a d に手を伸ばそうとする様子が見られた。 ・今後は、i P a d とスイッチの位置の再検討などの工夫を行っていきたい。 			

実践事例 2

書字に苦手意識のある児童への音声入力機能の活用①			
キーワード	生活単元学習、卒業文集、音声入力、W i f i — D i r e c t 接続 書字への苦手意識の軽減、表現力、主体的な思考		
学年 領域・教科	小学部6年 生活単元学習	単 元 名	卒業文集を作ろう
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> ・メモ（標準搭載） ・音声入力機能（標準搭載） 		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> ・メモ（標準搭載）は様々なことをメモ帳感覚で使用できる。 ・音声入力機能（標準搭載）は、メモ、メール、s a f a r i などの標準アプリの他、キーボードを表示するほとんど全てのアプリで音声での文字入力ができる。 		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・今までお世話になった教師に卒業文集のメッセージを依頼する手紙を作成する。 		
I C T 活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・書字への苦手意識を軽減し、手紙の内容を考えることに集中できるように、考えた手紙の内容を音声入力機能をメモに入力する。 ・手紙として完成させることができるよう、入力後は、i P a d と W i f i — D i r e c t 接続したプリンターで、その場ですぐに印刷する。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
<p>① i P a d を使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この学習を手書きで行った場合、書字への苦手意識から、教師にメッセージを依頼する手紙を作成する学習に意欲的に向かうことができなかつたと考えられる。 <p>② i P a d 使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声入力機能を活用することで、書字への苦手意識が取り除かれ、「書くこと」ではなく「考えること」に集中でき、学習に意欲的に取り組むことができた。 ・「〇〇先生とは色々な思い出がありますね」など、教師への心を込めたメッセージを考えて添えることができた。 			

実践事例 3

書字に苦手意識のある児童への音声入力機能の活用②			
キーワード	生活単元学習、進学、音声入力、W i f i - D i r e c t 接続 書字への苦手意識の軽減、表現力、主体的な思考		
学年 領域・教科	小学部6年 生活単元学習	単 元 名	レッツゴー中学部
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	・メモ（標準搭載） ・音声入力機能（標準搭載）		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> ・メモ（標準搭載）は様々なことをメモ帳感覚で使用できる。 ・音声入力機能（標準搭載）は、メモ、メール、s a f a r i などの標準アプリの他、キーボードを表示するほとんど全てのアプリで音声での文字入力ができる。 		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部主事へのインタビューに向けて、中学部に関する質問事項を考えてまとめる。 		
I C T 活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・書字への苦手意識を軽減し、中学部主事への質問を考えることに集中できるように、考えた質問の内容を音声入力機能でメモに入力する。 ・音声入力した質問の一覧は、入力後、i P a d と W i f i - D i r e c t 接続したプリンターで、その場ですぐに印刷する。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
<ul style="list-style-type: none"> ① i P a d を使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・この学習を手書きで行った場合、書字への苦手意識から、質問事項をまとめる学習に意欲的に向かうことができなかつたと考えられる。 ② i P a d 使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・音声入力機能を活用することで、苦手意識が取り除かれ、「書くこと」ではなく「考えること」に集中できた。 ・そのため、「制服のネクタイは結ぶタイプですか?」「作業学習で作る物は、自分で決めることができますか?」など、11項目の質問を考えることができた。 ・「制服のネクタイは結ぶタイプですか?」という質問を中学部主事にしたことにより、次年度から、結ぶタイプのネクタイも採用され、児童生徒の社会自立の一助となった。 			

実践事例 4

中学部棟に興味をもつことができるようにする全天球カメラの活用			
キーワード	全天球カメラ、360°撮影、学習意欲の向上、位置関係の理解		
学年 領域・教科	小学部6年 生活単元学習	単元名	レッツゴー中学部
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	・Insta 360 Nano（全天球カメラ）及び附属アプリ		
このアプリでできること	静止画、動画ともに360°全方向を撮影、再生することができる。		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学部の校舎を見学し、小学部との違いを知る。 ・ 中学部の生活について、知りたいことを自分で考える。 		
ICT活用の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学部の校舎や生活に興味をもつことができるように、中学部棟を見学した際に、全天球カメラを使用して、児童が中学部校舎を写真撮影を行うことができるようにする。 ・ 撮影後は、テレビに接続し、視聴することにより、小中学部の違いについて考えることができるようにする。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
① iPadを使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習意欲がわからない児童が授業に参加できない。 ・ 写真や一方向から撮影した動画では、中学部棟の位置関係がつかめず、理解が深まらない。 			
② iPad使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全天球カメラという新しい機器を使うことで、児童が機器に興味をもち、それをきっかけに学習全体にも意欲的に取り組むことができた。 ・ 撮影後、テレビで視聴した際は、見たい部分を回転させながら、360°方向に隅々まで見ることができるので、中学部校舎の様々な場所の位置関係の理解が深まった。 ・ 理解が深まることで、小学部のと中学部の違いについて、考えることができた。 			

実践事例 5

集団活動を苦手とする生徒に対する授業の目標の再設定と学習機会の保障			
キーワード	音楽、集団活動が苦手、授業目標の再設定、学習機会の保障、face time 遠隔授業		
学年 領域・教科	中学部2年 音楽	単 元 名	フォークダンスをしよう(歌唱む)
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	・face time		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> ・端末間でテレビ電話のように(ビデオチャット)、相手を見ながら会話ができる。 ・そのため、企業等でもテレビ会議システムとして導入している事例がある。 		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークダンスの曲や友達の踊る様子を興味をもって見たり、聞いたりする。 		
ICT活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・場面緘黙で、かつ、集団での活動を苦手としている生徒が対象である。 ・一緒に学習する予定の生徒は、「リズムに合わせて、フォークダンスを踊る」ことを目標としていたが、対象児童は、「フォークダンスの曲や友達の踊る様子を興味をもって見たり、聞いたりする」と変更した。 ・フォークダンスの曲や友達の踊る様子を興味をもって見たり、聞いたりすることができるように、別室で他の中学部生が行っている歌唱やフォークダンスの様子をface timeで中継し、視聴できるようにする。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
<ul style="list-style-type: none"> ① iPadを使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動を苦手としているため。音楽に入ることができない。 ・音楽室に入ったとしても、フォークダンスに加わることができない。 ② iPad使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・iPadを注視し、他の生徒の歌唱やフォークダンスの曲を聞いていた。 ・他の生徒がダンスをしている様子を興味をもって見ていた。 ・face timeの利用により、学習の機会を保障でき、「いろいろな音楽に関心をもって聞く」という再設定した目標を達成することができた。 			

実践事例 6

集団活動を苦手とする生徒に対する学習機会の保障			
キーワード	保健、集団活動が苦手、学習機会の保障、f a c e t i m e、遠隔授業		
学年 領域・教科	中学部2年 保健体育	単 元 名	健康な体
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> ・ f a c e t i m e 		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 端末間でテレビ電話のように（ビデオチャット）、相手を見ながら会話ができる。 ・ そのため、企業等でもテレビ会議システムとして導入している事例がある。 		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風邪などの予防法について理解する。 		
I C T 活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面緘黙で、かつ、集団での活動を苦手としている生徒が対象である。 ・ 対象生徒が風邪などの感染症の予防法について理解できるように、他の生徒が別室で学習している様子を f a c e t i m e で中継し、理解できるようにする。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
① i P a d を使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団での活動を苦手としているため。教室に入ることができない。 ・ 仮に教室に入ったとしても、下を向いているか、机に伏せている。 			
② i P a d 使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットを注視していて、手洗いの仕方やうがいの仕方など、風邪の予防法について学ぶことができた。 ・ 翌日、手洗いの仕方を確認したところ、授業で説明した手順通りに、手洗いをしており授業内容を理解していることが確認された。 ・ f a c e t i m e の利用により、他の生徒と同等の学習の機会を保障でき、風邪の予防法を学習することができた。 			

実践事例 7

校外学習の経路の理解促進のための g o o g l e ストリートビューの活用			
キーワード	職業、校外学習、g o o g l e ストリートビュー、経路、位置関係の理解		
学年 領域・教科	高等部1年 職業科	単 元 名	身近にあるいろいろな仕事を知ろう
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> ・ s a f a r i (標準搭載) ・ g o o g l e ストリートビュー 		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> ・ s a f a r i は i P a d 標準搭載のブラウザアプリである。 ・ g o o g l e ストリートビューは、世界中の道路沿いの風景をパノラマ写真で見ることができるインターネット上のサービスである。 		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハローワークや近隣の事業所への校外学習を前に、訪問先までの道順や場所を確認する。 		
I C T 活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハローワークや近隣の事業所までの道順や場所を確認できるように、g o o g l e ストリートビューで視覚的に場所や道順を確認する。 ・ 初めての体験や場所に不安を感じる生徒がいるため、自分が知っている場所や店の近くにある事業所等に行くことが分かるように、g o o g l e ストリートビューで視覚的に場所や道順を確認した。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
<p>① i P a d を使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習や当日の活動に見通しをもてずに、不安感や緊張感が強かったと考えられる。 <p>② i P a d 使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒も実際に操作して、訪問先の周辺や訪問先までの経路の周囲の様子を g o o g l e ストリートビューに興味をもって、確認していた。 ・ その過程で、自分の知っている店や行ったことのある場所も見付けることができ、当日の活動に対する不安感や緊張感の軽減につながった。 ・ 校外学習当日は、タクシーでの移動であったが、g o o g l e ストリートビューで確認した道順での移動であったため、より鮮明に自分の移動場所を理解し、安心した様子だった。 ・ その結果、ハローワークの役割を知ったり、様々な職種についての知識を広げるといふ、校外学習本来のねらいに迫ることができた。 			

実践事例 8

ハローワークへの校外学習を前にした求人情報の検索			
キーワード	職業、s a f a r i、インターネット、求人情報、ハローワーク		
学年 領域・教科	高等部1年 職業科	単 元 名	身近にあるいろいろな仕事を知ろう
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	・ s a f a r i (標準搭載)		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> ・ s a f a r i は i P a d 標準搭載のブラウザアプリである。 ・ インターネットの閲覧ができる。 		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハローワークの校外学習を前に、「求人」や「求人情報」の言葉の意味を理解する。 		
I C T 活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「求人」の言葉の理解し、「求人情報」には、どのような情報が含まれるのかを理解するために、g o o g l e で横手市内の求人情報を検索して見る。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
<ul style="list-style-type: none"> ① i P a d を使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・ ハローワークを訪問しても、「求人」や「求人情報」言葉やへの理解が深まらなかったと考られる。 ② i P a d 使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 横手市内の求人情報を検索することにより、自分の自宅近くの事業所や知っている職種 の求人も載っていることに気付き、興味をもって閲覧することができた。 ・ 求人情報の内容を事前に知ることにより、ハローワークでは、求人情報の検索機 の言葉を理解し、意欲的に検索することができた。 ・ i P a d、ハローワーク内の検索機ともにタッチパネルで扱いは似ていることも 興味をもって閲覧する要因となった。 			

実践事例 9

訪問学級生徒が注視をするための動画の活用			
キーワード	訪問学級、日常生活の指導、カメラ（動画／i P a d標準搭載）眼球、注視、友達からのメッセージ		
学年 領域・教科	高等部3年 訪問学級 日常生活の指導	単 元 名	はじめの会
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	・カメラ（動画／i P a d標準搭載）		
このアプリで できること	・i P a d標準搭載のカメラは、写真撮影、動画撮影ができる。		
授業の概要			
授業のねらい	・声や音がする画面の方向に顔を動かしたり、画面を注視したりする。		
I C T活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での訪問学習の始めの会の日付を確認する場面で使用した。 ・同学年の友達からのメッセージ（日付と一言）を動画で再生し、提示した。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
<ul style="list-style-type: none"> ① i P a dを使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・音源を探そうと眼球を動かしたり、頭を動かしたりしたと考えられる。 ② i P a d使用時の児童生徒の様子の変化と授業の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・画面を生徒の見えやすい位置に提示すると、音源を探して顔を動かしたり、眼球を動かして画面を注視することがあった。 ・学校行事の様子を動画で視聴する学習を重ねていたこともあり、i P a dから友達の声が聞こえると瞬きしたり、頭をヘッドレストから離してもたげ、左右に動かす場面が増えた。 ・友達同士の会話が聞こえると、笑顔になることもあり、友達の声を認識していると思われる場面が見られた。 			

実践事例 10

ビデオチャットを利用した訪問学級生徒と通学生の同時授業			
キーワード	訪問学級、自立活動、学習機会の保障、face time、遠隔授業		
学年 領域・教科	高等部3年 訪問学級 自立活動	単元名	みんなで楽しもう～音楽交流～
使用したアプリ等の概要			
アプリ名等	・face time		
このアプリで できること	<ul style="list-style-type: none"> ・端末間でテレビ電話のように（ビデオチャット）、相手を見ながら会話ができる。 ・そのため、企業でも、テレビ会議システムとして導入している事例がある。 		
授業の概要			
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・声や音がする画面の方向に顔を動かしたり、画面を注視したりする。 ・画面を通して聞こえてくる音を聞いたり、画面を見たりして、表情や体の動きなどで自分の気持ちを表す。 		
ICT活用の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・通学生を対象に高等部合同自立活動で取り組んだ音楽療法の活動を、face timeで家庭に中継することにより、部分参加できるようにする。 		
児童生徒の変容と授業の評価			
<ul style="list-style-type: none"> ① iPadを使用しなかった際に考えられる児童生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> ・後日、友達が取り組んだ様子をビデオで視聴する活動になったと考えられる。 ② iPad使用時の、児童生徒の様子の変化と授業の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・画面を通して聞こえてくる友達や教師の声を聴いて、興味をもったのか、画面から賑やかな音が流れてくると、ヘッドレストから頭を離して音源を探していた。 ・画像と音声のタイムラグがほとんどなく、学校にいる外部講師からの言葉掛けや楽器演奏に対して瞬きや表情で気持ちを表すことができた。 ・楽器遊びの場面では、学校で活動している友達と順番で、講師の伴奏に合わせて楽器を鳴らすことができた。 ・友達が楽器を鳴らすのを聞いたり、自分も鳴らしたりする活動を繰り返すことで、演奏中、自分から腕を動かす姿が見られた。 ・画面に映る相手によって、少し緊張したような表情で視線を逸らし続けたり、笑顔になったりして、感情の違いを表すことができた。 ・自宅にいながらも集団の一員として活動することができた。 			

i P a d 活用票

小学部

i P a d 活用票

キーワード	遊びの指導、特殊効果、テレビ接続、多人数視聴、学習意欲の向上		
	小学部全体	領 域 教 科	遊びの指導
単元名	おはなしのくにへレッツゴー		
使用したアプリ	・SuPeR Power FX		
どのように活用したか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハリーポッター」の世界を体験するコーナーで、児童を動画で撮影し、手から火の玉が出る特殊効果を加えて、提示した。 ・タブレットをテレビに接続し、多人数でリアルタイムに視聴できるようにした。 		
児童生徒の様子はどのようだったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに特殊効果を施し、タブレットをテレビに接続して多人数でリアルタイム視聴できるようにしたところ、自分や友達が手から火の玉が出る様子に、とても興味をもつ児童が多く、何人もの児童が積極的に遊びに参加することができた。 		
キーワード	遊びの指導、絵画、お絵かきアプリ、学習意欲の向上、テレビ接続 多人数視聴		
	小学部全体	領 域 教 科	遊びの指導
単元名	つくってあそぼう		
使用したアプリ	・おえかきすいそうピクチャリウム		
どのように活用したか。	<ul style="list-style-type: none"> ・期待感をもって、目的のある絵を楽しみながら描くことができるように、i P a dの画面で描いた魚の絵が画面の中の水槽内で泳ぎ出すアプリを使用し絵を描いた。 ・タブレットをテレビに接続し、多人数でリアルタイムに視聴できるようにした。 		
児童生徒の様子はどのようだったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは、人の顔など決まった絵しか描かない児童たちが、「さかな」「かに」などと話しながら、いろいろな絵を描くことができた。 ・自分の描いた絵が泳ぐ様子やえさを食べる様子を見て喜び、意欲的に何回も絵を描く様子が見られた。 		

i P a d 活用票

キーワード	生活単元学習、カメラ（動画／i P a d 標準搭載）、地域ボランティアの演奏、反復練習、合奏、学習意欲の向上、達成感		
小学部 2、3 年	領 域 教 科	生活単元学習	
単 元 名	みんなで遊ぼう！きらきらステージ		
使用したアプリ ・カメラ（動画／i P a d 標準搭載）			
どのように活用したか ※「きらきらステージ」は、小学部 4 年生を招待し、ピアノ演奏の地域ボランティアと一緒に演奏や紙芝居の読み聞かせを、自分たちで進行しながら、行うものである。 ・当日、地域ボランティアの演奏に合わせて演奏ができるように、地域ボランティアの演奏を i P a d に録画しておき、再生することにより、その演奏に合わせて練習ができるようにする。			
児童生徒の様子はどのようなだったか。 ・動画の地域ボランティアの演奏にあわせて、何度も、練習をすることにより、当日と同じ伴奏で練習を行うことができた。 ・動画で地域ボランティアの姿を見ることにより親近感が増し、「きらきらステージ」当日に対する期待感が高まった。 ・そのため、進んでゲームに必要な物を準備したり、意欲的に進行の練習に取り組むなど、期待感の高まりが見られた。 ・「きらきらステージ」当日は、地域ボランティアのピアノの生演奏に合わせて演奏したり、上手に進行したりすることができ、児童に達成感が見られた。			

i P a d 活用票

キーワード	生活単元学習、校外学習の振り返り、カメラ（写真、動画）、思い出の共有		
	小学部5年	領 域 教 科	生活単元学習
単元名	きらきらのなかまででかけよう		
使用したアプリ ・カメラ（写真、動画／i P a d 標準搭載）			
どのように活用したか ・道の駅「十文字」に買い物や食事に行った際の活動を、i P a d で撮影した写真や動画を見て、振り返ることができるようにする。			
児童生徒の様子はどのようだったか。 ・i P a d の操作方法を理解している児童もおり、撮影された写真をスワイプし、写真を切り替えようとする様子が見られた。 ・全員と一緒に活動をする、お菓子を選ぶ、食事をする、金銭の支払いをする、といった学習課題を行っていたことを写真や動画で児童が確認できた。 ・「全員が一緒に行動して楽しかった」「食事が美味しかった」という校外学習の思い出を学年全員で共有することができた。			
キーワード	生活単元学習、家族からのメッセージ、カメラ（動画）、理解の促進		
	小学部5年	領 域 教 科	生活単元学習
単元名	みちのえきじゅうもんじのおいしいものをおしえよう		
使用したアプリ ・カメラ（動画／i P a d 標準搭載）			
どのように活用したか ・「道の駅十文字」で購入したりんごジュースを使用して、学年全員がゼリーを作り、家族にプレゼントした。 ・家族からのお礼のメッセージを理解しやすいように、家族から、メッセージを動画撮影してもらい、児童に提示した。			
児童生徒の様子はどのようだったか。 ・家族から動画で「ありがとう」という言葉を聞くことにより、教師が家族の手紙を読むよりも、家族の気持ちが一目で児童に伝わり、ゼリーを作ったことを喜ぶ児童が多く見られた。			

i P a d 活用票

キーワード	国語、ひらがなの読み書き、誤字脱字の改善、B i t s B o a r d		
	小学部6年	領域 教科	国語
単元名	ことばをおぼえよう		
使用したアプリ ・ B i t s B o a r d			
どのように活用したか。 ・ 単語の書字の際、ひらがなの語順が入れ替わったり文字の一部が抜けたりする児童に対して、正確に単語やひらがなを書くことができるようにする。 ・ 上記アプリのW o r d C r e a t e r 機能で絵カードを取り込み、W o r d B i l d e r 機能で正しく文字を並べるドリル学習を行った。			
児童生徒の様子はどのようだったか。 ・ 単語を声に出して読み、文字数や語順を意識しながら、学習に取り組む様子が見られるようになり、正しく単語を書字することができるようになった。			
キーワード	国語、文字、指によるなぞり書き、正しい字形、知育アプリ、学習意欲の向上		
	小学部6年	領域 教科	国語
単元名	ひらがなをかいてみよう		
使用したアプリ ・ こどもゆびドリル 入学準備ひらがな			
どのように活用したか。 ・ 鉛筆がうまく握れない児童に対して、上記のアプリを使用し、画面上の平仮名を指でなぞることにより、書字の学習をする。 ・ 平仮名を書く時に字形が崩れてしまう文字を、アプリのドリル機能を活用し、何度も反復練習する。			
児童生徒の様子はどのようだったか。 ・ 鉛筆を使用せずに、画面上の平仮名をなぞることにより、文字を書くことへの苦手意識が軽減した。 ・ 指でなぞることにより、安定した線を書くことができ、苦手としていた「しめ」のある平仮名のなぞりにも、積極的に取り組むことができた。 ・ 「ん」などの文字の字形が崩れてしまう平仮名の書き方を、繰り返し練習することによって、正しく書くことができるようになってきた。			

i P a d 活用票

キーワード	算数、マッチング、知育アプリ、補助教材、学習意欲の向上		
小学部 6 年	領 域 教 科	算数	
単 元 名	かずにしたしもう		
使用したアプリ ・みつけたっち！ あそびキッズ			
どのように活用したか。 ・絵のマッチングをゲーム感覚で意欲的に行えるように、形タイトルのマッチング学習の補助教材として活用した。			
児童生徒の様子はどのようなだったか。 ・正解と不正解が音と絵で分かりやすく示されるため、意欲的に取り組んでいた。 ・実物を使用したマッチングでは、課題を教師が提示するため、課題に注目しやすくマッチングの正答率も高かったが、上記のアプリでは課題と選択肢が並列で提示されるため、最初は正答率が低かった。 ・実物でのマッチングを繰り返すことにより、課題の意味を理解できるようになった。 ・それにともない、アプリ上での正答率も向上した。 ・今後、プリント学習などにつなげ、理解が深まるように指導していきたい。			

i P a d 活用票

キーワード	音楽、器楽、Y o u T u b e、目の前にない物のイメージ化、学習意欲の向上		
小学部 4～6 年	領 域 教 科	音楽	
単 元 名	リズムにのってたのしもう		
使用したアプリ ・ Y o u T u b e			
どのように活用したか。 ・ 器楽の題材「むしのこえ」に出てくる「すずむし」「まつむし」「きりぎりす」「うまおい」等の虫の画像や鳴き声をイメージできるように、Y o u T u b e で動画視聴した。			
児童生徒の様子はどのようだったか。 ・ 食い入るように虫の動画を見たり、「やだー!」「こわい!」などの虫を嫌がる様子が見られたりした。 ・ 「きりぎりすは緑色なんだね」と虫の様子をよく見て、特徴をとらえて話す児童もいた。 ・ 器楽演奏の際は、すずむしの「リンリン」に合わせて、虫の声をまねするようにそっと鈴を振る姿が見られた。			
キーワード	音楽、オーケストラ、Y o u T u b e、目の前にない物のイメージ化 学習意欲の向上		
小学部 4～6 年	領 域 教 科	国語	
単 元 名	どんぐり音楽隊		
使用したアプリ ・ Y o u T u b e			
どのように活用したか。 ・ オーケストラ演奏のイメージをもつことができるように、Y o u T u b e でオーケストラ演奏「シンコペイテッドロック」を視聴した。			
児童生徒の様子はどのようだったか。 ・ オーケストラで様々な楽器が使われていることや大人数で演奏していることに気づくことができた。 ・ 画面に出ている楽器の名前を質問すると、「知ってる。バイオリン!」などと意欲的に答える姿が見られた。			

i P a d 活用票

キーワード	体育、器械運動、カメラ（動画／i P a d 標準搭載）、自己肯定感、自己評価		
	小学部 6 年	領 域 教 科	体育
単 元 名	器械運動		
使用したアプリ ・カメラ（動画／i P a d 標準搭載）			
どのように活用したか。 ・児童のかえるの足打ちや逆立ちなどの様子を i P a d のカメラ（動画機能）で撮影し、児童自身が撮影した映像を見て改善点を見つけ、練習に生かす。			
児童生徒の様子はどのようだったか。 ・児童が撮影した映像を見て、『かえるの足打ちでは「足をもっと高く上げてから叩いた方がよい』、逆立ちでは「上げた足をもっと閉じた方がよい」などと自分で改善点に気づき、練習に生かしていた。 ・改善後の映像を見て、かえるの足打ちや逆立ちが「かっこよく決まった！」と喜んでいました。			
キーワード	特別活動、音楽発表、集団活動が苦手、動画編集、代替手段、学習機会の保障、自己肯定感		
	小学部 6 年	領 域 教 科	特別活動
単 元 名	クリスマスお楽しみ会		
使用したアプリ ・i M o v i e（動画編集アプリ）			
どのように活用したか。 ・集会活動が苦手なため、クリスマスお楽しみ会で音楽発表ができない児童に対して、事前に i P a d のビデオ機能で演奏の様子を撮影し、集会の中で上映した。			
児童生徒の様子はどのようだったか。 ・ビデオで上映することを伝えることにより、人前に出たくない不安が軽減されて、演奏に集中することができた。 ・ビデオを見た他児童から「すごいね」「うまいね」など称賛の言葉をもらい、達成感や自己肯定感を得ることができた。			

i P a d 活用票

キーワード	自立活動、遠方との会話、表現力、f a c e t i m e、自己評価		
	小学部 6 年	領 域 教 科	自立活動
区分領域	2-①② 6-①⑤		
使用したアプリ ・ f a c e t i m e			
どのように活用したか。 ・ 児童の学習への意欲喚起し自ら表現する力を育てるために、長期出張中の担任と f a c e t i m e を使用して会話をした。			
児童生徒の様子はどのようなだったか。 ・ 長期出張中の担任の声が i P a d から聞こえたり、表情が見えたりすると、i P a d の周りに集まり、大喜びで会話を楽しんでいた。 ・ 相手に日々の活動の様子を伝えようと、収穫した枝豆や完成した工作作品を映したり、i P a d の方向を変えて、自分や友達を写したりしていた。 ・ 自分のがんばりや活動の様子を相手に伝えようとする活動を通し、分かりやすく表現したりその様子を自己評価しようとする姿勢へとつながった。			
キーワード	声の大きさの視覚化、自己評価		
	小学部 6 年	領 域 教 科	自立活動
区分領域	6-①⑤		
使用したアプリ ・ N o i s e L e v e l (騒音測定アプリ)			
どのように活用したか。 ・ 大きい声を出してしまう児童に対して、自分の声の大きさを視覚的に理解することができるようにし、適切な声の大きさを話すことができるようにする。 ※アプリを i P h o n e にインストールし、児童の机の上にスマートフォンを置いて使用した。			
児童生徒の様子はどのようなだったか。 ・ あまり意識せず、大きい声を出す児童であったが、音量が大きい際に画面上で風船が割れる様子を見ることにより、音量を落とそうとする様子が見られた。 ・ 「声のボリュームを下げて」という言葉掛けが抽象的で理解しにくいようであったが、風船の大きさを音量を示すことにより、児童が自分の声の大きさを理解できた。			

i P a d 活用票

中学部

i P a d 活用票

キーワード	生活単元学習、校外学習、効果の支払い、T y P o B o x、視覚優位半具体物の提示		
中学部 1 年	領 域 教 科	生活単元学習	
単 元 名	横手のいいところ 見たい 聞きたい ふれあいたい ～かまくらでおもてなし～		
使用したアプリ			
・ T y p o B o x (写真に文字入れアプリ)			
どのように活用したか			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 校外学習の際に、視覚優位の生徒に対し、バス運賃や昼食の代金をスムーズに準備できるように、必要な硬貨を「T y p o B o x」の画面上で表示する。 (硬貨の名称は文字で表示した) 			
児童生徒の様子はどのようなだったか。			
<ul style="list-style-type: none"> ・ バス内で運賃を準備する際に、「T y p o B o x」で必要な硬貨を提示すると、一人で財布から必要な硬貨を正確に取り出すことができた。 ・ 昼食後の代金を払う際も、「T y p o B o x」で必要な硬貨を提示すると、一人で財布から必要な硬貨を正確に取り出すことができた。 			
キーワード	生活単元学習、保育園との交流、カメラ（動画）、活動の振り返り 主体的な思考		
中学部 3 年	領 域 教 科	生活単元学習	
単 元 名	Y K T 読み聞かせ隊②～むつみ保育園のみなさんに楽しんでもらおう～		
使用したアプリ			
・ カメラ (動画 / i P a d 標準搭載)			
どのように活用したか			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の保育園児に対して、読み聞かせを行うことになった。 ・ 事前に園児と一緒にを設け、その様子や園児の手遊びの様子を i P a d で撮影し、教室で提示することにより、どのような読み聞かせをすればよいのか、考えることができるようにする。 			
児童生徒の様子はどのようなだったか。			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に活動した様子を、再度、動画視聴することにより、園児の話し方や手遊び仕方に興味をもって視聴していた。 ・ 以下のような発言があり、園児の様子を観察している様子があった。 「ままごと遊びでは、自分たちの顔を見て話しかけていた。」「にこにこしていた」 『手遊び「ひげじいさん」では、トントンの部分を一緒にやっていた。』 ・ その結果、読み聞かせの話し方や表現の仕方を考えることができた。 			

i P a d 活用票

キーワード	生活単元学習、保育園児への読み聞かせ、カメラ（動画）、振り返り 自己評価、相互評価		
中学3年		領 域 教 科	生活単元学習
単 元 名	YKT読み聞かせ隊③ ～むつみ保育園のみなさんに季節のお話を楽しんでもらおう～		
使用したアプリ ・カメラ（動画／i P a d標準搭載）			
どのように活用したか ・近隣の保育園での読み聞かせの様子を振り返ることができるように、動画撮影した読み聞かせの様子を提示した。			
児童生徒の様子はどのようなだったか。 ・動画視聴により、園児が「一緒に歌っていた」「にこにこしていた」「『楽しかった』と言ってくれた」など読み聞かせを通して園児を喜ばせることができたことを再確認でき、喜んでいた。 ・動画を見て、自分や友達の目標である「間をあけて話す」「声のトーン」「絵を出すタイミング」「伴奏のテンポ」を達成できたことを自己評価及び相互評価することができた。 ・以上のことを通して、保育園児への読み聞かせが成功だったことを確認し、喜びあうことができた。			

i P a d 活用票

キーワード	国語、読み聞かせ、集団活動が苦手、学習機会の保障、f a c e t i m e、遠隔授業		
中学部 2 年	領 域 教 科	国語	
題 材 名	外部ボランティアの方からの読み聞かせ		
使用したアプリ	・ f a c e t i m e		
<p>どのように活用したか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面緘黙で、かつ、集団での活動を苦手としている生徒が対象である。 ・ 本や読書に親しむため、外部ボランティアを招き、中学部全員に読み聞かせを行った。 ・ 対象生徒も、外部ボランティアの読み聞かせを見たり聞いたりできるように、その様子を別室にいる対象生徒に f a c e t i m e で中継し、視聴できるようにする。 			
<p>児童生徒の様子はどのようなだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ i P a d を注視して、ボランティアの方の読み聞かせの様子や生徒たちの反応を見ていた。 ・ 終了後、「面白かったですか」と感想を聞いたところ、手を挙げ「面白かった」ことを教師に伝えることができた。 ・ f a c e t i m e の利用により、他の生徒と同等の学習の機会を保障でき、読書の楽しさを感じることもできた。 			
キーワード	総合的な学習の時間、かまくらのおもてなし、集団活動が苦手、学習機会の保障、f a c e t i m e、遠隔授業		
中学部 2 年	領 域 教 科	総合的な学習の時間	
単 元 名	かまくらに参加しよう		
使用したアプリ	・ f a c e t i m e		
<p>どのように活用したか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学部では、小正月行事「かまくら」当日に、横手公園内のかまくらで観光客のおもてなし（接客）を行っている。 ・ 場面緘黙で、かつ、集団での活動を苦手としている生徒が対象である。 ・ 対象生徒がおもてなしの手順を学習できるように、その様子を対象生徒に f a c e t i m e で中継し、視聴できるようにする。 			
<p>児童生徒の様子はどのようなだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中継された授業の様子に興味をもって見ていた。おもてなしの手順の場面は、学習のポイントであることが分かり、よく見ていた。中継を終えた後、「おもてなしの手順は理解できましたか」と聞いたところ、手を挙げ、理解できたことを教師に伝えることができた。 ・ f a c e t i m e の利用により、他の生徒と同等の学習の機会を保障でき、おもてなしの手順を確認できた。 			

i P a d 活用票

高等部

i P a d 活用票

キーワード	国語、家庭での外出、s a f a r i (i P a d 標準搭載)、言語化、文章化 インターネット、視覚情報、想起		
高等部 1 年	領 域 教 科	国語	
単 元 名	書いてみよう 話してみよう		
使用したアプリ ・ s a f a r i (i P a d 標準搭載)			
どのように活用したか <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な会話はできるが、過去の出来事を視角情報がないと話すことが困難な生徒が対象である。 ・冬休みの一行日記に、「牛井チェーン店に行きました。」と記述があった。 ・インターネットで牛井チェーン店のメニュー表を提示し、何を食べたか確認し、話したり、書いたりできるようにする。 			
児童生徒の様子はどのようなだったか。 <ul style="list-style-type: none"> ・牛井チェーン店のHPを提示し、「ここに行きましたか？」と尋ねると、「行きました。」と答え、会話が成立した。 ・HP内のメニュー表を提示し、「何を食べましたか？」と尋ねると、「牛井」を指さし「ぎゅうどん」と答え、会話が成立した。 ・「次に行った時は、何を食べたいですか？」と聞くと、食べたいメニューを指さし、答えた。 ・以上のことを、教師が文章にして提示することにより、冬休みに牛井チェーン店に行った際の一連の出来事を話したり、文章にしたりすることができた。 			

i P a d 活用票

キーワード	国語、インタビュー、カメラ（動画／i P a d 標準搭載）、自己評価 相互評価		
高等部 3 年	領 域 教 科	国語	
単 元 名	インタビューをして報告書を作ろう		
使用したアプリ ・カメラ（動画／i P a d 標準搭載）			
どのように活用したか ※学校祭作業製品販売の際に、お客様に各作業学習班のおすすめ製品を紹介できるように、「おすすめ製品一覧表」を作成することにした。 ・「おすすめ製品一覧表」の作成にあたり、各作業学習班にインタビューを行った様子を動画撮影して生徒に提示し、インタビューの様子を確認しながら、作成できるようにする。			
児童生徒の様子はどのようなだったか。 ・後日、動画を見ることにより、「おすすめ製品一覧表」作成に対する意欲が高まった。 ・動画を視聴することにより、インタビューの際に聞き取れなかったことや聞き間違っことを自ら確認することができ、正確な報告書を作ることができた。 ・動画を見ることにより、話すスピード、声量、言葉遣い、表情や態度を自己評価したり、相互評価することができ、学校祭の作業販売に向けて、改善できた。			

i P a d 活用票

キーワード	国語、詩の音読、カメラ（動画／i P a d 標準搭載）、自己評価、相互評価		
高等部 3 年	領 域 教 科	国語	
単 元 名	詩文に親しもう		
使用したアプリ	・カメラ（動画／i P a d 標準搭載）		
どのように活用したか	<p>・詩の音読の学習の際に、音読の様子を 2 m 程度離れた所から動画撮影して生徒に提示することにより、音読のスピード、音量、声のトーンなどは適切か、自己評価したり、相互評価できるようにする。</p> <p>児童生徒の様子はどのようなだったか。</p> <p>・音読の様子を動画で見ることにより、「もっと、大きな声でゆっくり音読した方がよい」「顔を上げた方が声が大きく聞こえる」などの発言があり、自ら音読の様子を自己評価していた。</p> <p>・生徒間の相互評価もあり、他生徒からの評価の内容も同じだったので、自己評価に対する自信を深める生徒が多かった。</p> <p>・以上のような自己評価と相互評価の後、再度、音読を行ったところ、以下のような改善が見られ聞きとりやすくなった。</p> <p style="padding-left: 40px;">音量が大きくなった。 音読のスピードがゆっくりになった。</p> <p style="padding-left: 40px;">語尾が聞き取りやすくなった</p>		
キーワード	特別活動、放送委員会、車椅子、狭い通路、カメラ（動画／i P a d 標準搭載） 代替表現手段、学習意欲の向上		
高等部 2 年	領 域 教 科	特別活動（委員会活動）	
所属委員会	放送委員会		
使用したアプリ	・カメラ（動画／i P a d 標準搭載）		
どのように活用したか	<p>・対象生徒は車椅子を使用する生徒である。</p> <p>・職員室内の放送室までの通路が狭く車椅子で放送室に入れない。</p> <p>・生徒会の中での自らの役割を果たすため、放送で話す内容を事前に動画機能を使って録音し、教師が全校放送をする。</p>		
児童生徒の様子はどのようなだったか。	<p>・上記のことを教師が提案したところ、喜んで受け入れた。</p> <p>・ボイスメモへの録音は前日に行うことにしているが、前日は自分から録音したいと教師に伝えるようになり、自分の役割を果たした。</p>		

i P a d 活用票

キーワード	職業、会えない卒業生へのインタビュー、カメラ（動画／i P a d 標準搭載） 臨場感、思考の深まり		
高等部 3 年	領 域 教 科	職業	
単 元 名	私の支援計画を作ろう		
使用したアプリ ・カメラ（動画／i P a d 標準搭載）			
どのように活用したか <ul style="list-style-type: none"> ・「私の支援計画」に記載する目標を考えるため、社会人に必要な力を卒業生に質問をした。 ・その際に、卒業生への質問事項を、動画で撮影し、教師が卒業生に提示した。 ・卒業生からの回答も教師が動画撮影し、後日、授業で提示し、社会人に必要な力を考えることができるようにした。 			
児童生徒の様子はどのようなだったか。 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生に質問をするために、手紙を書いたり、校外学習を実施したりする必要がなく、質問を考えることに集中できた。 ・卒業生からの回答の視聴した際は、自分の予想とは違う回答に驚いたり、卒業生の考え方に感心したりする様子が見られた。 ・いずれも、卒業生の背後の映像が就職先であると言う臨場感があり、納得する生徒が多かった。 ・卒業生の回答及び回答をもとにした生徒間の話し合いを経て、「私の支援計画」に記載する目標を、自ら考えて記述する様子が見られた。 			
キーワード	職業、面接練習、カメラ（動画／i P a d 標準搭載）、自己評価		
高等部 3 年	領 域 教 科	職業	
単 元 名	会社のことについて知ろう～面接の準備をしよう～		
使用したアプリ ・カメラ（動画／i P a d 標準搭載）			
どのように活用したか <ul style="list-style-type: none"> ・入社面接の練習において、その様子を動画撮影して振り返り、自ら気づいて改善をする。 			
児童生徒の様子はどのようなだったか。 <ul style="list-style-type: none"> ・歩く姿勢や椅子へ座り方、表情、話し方等のポイントに沿って、練習の動画を視聴することにより、以下の点を自己評価し、自ら改善することができた。 <ul style="list-style-type: none"> 歩くとき、座るときは、背筋を伸ばす。 目線は相手の顔を見て、表情は硬くないようにする。 話す時は語尾までゆっくりと話す。 			

平成29年2月 作成

秋田県立横手支援学校

校長 佐々木 明美